



SEE YOU NEXT ISSUE  
WINTER 2019

各商品のご購入はこちらへお問い合わせください。

[zgoods@o-smi.co.jp](mailto:zgoods@o-smi.co.jp) | 045-924-1050

〒246-0008 神奈川県横浜市瀬谷区五貫目町 20-17 株式会社オオスミ ゼロクログッズ販売部

ZERO CHRONICLE

ISSUE #0

ゼロ・クロニクル | JAPAN

発行 株式会社オオスミ

ゼロ・クロニクル | JAPAN

夏至と冬至 年2回発行の環境グッズマガジン

# ZERO CHRONICLE

ISSUE #0  
SUMMER 2019

上にいるのはドイツだ！？  
環境先進国のビジネスアイデア

PICK UP 1  
ORIGINAL UNVERPACKT  
SECOND BÄCK  
FROM BERLIN ...and more

PICK UP 2  
KASHIMA PRINTING  
DENKOSHA  
FLORIAN KOHLBACHER  
OA LIN ...and more

日本の脱・プラとゼロ・ウェイストに貢献したい  
Encouraging Zero Waste & Less Plastic

PUBLISHED BY





HELLO FROM  
CO-EDITORS IN CHIEF

## 編集長からのごあいさつ

### まだ間に合うことを信じて

この数十年間、私たちは有害な化学物質による汚染を発見し、調査・分析し、その対策に努めてきました。今では法律も整備され、意識も向上しました。しかしプラスチックによる地球環境への悪影響は、経済発展や便利さの裏で密かに進行し、もう既に取り返しのつかないところに来てしまっています。それでもまだ遅くない。私たちにもできる事はある。この問題に取り組む世界の人たちに学び、実践したい。そんな想いを込めました。

*Takeshi Osumi*

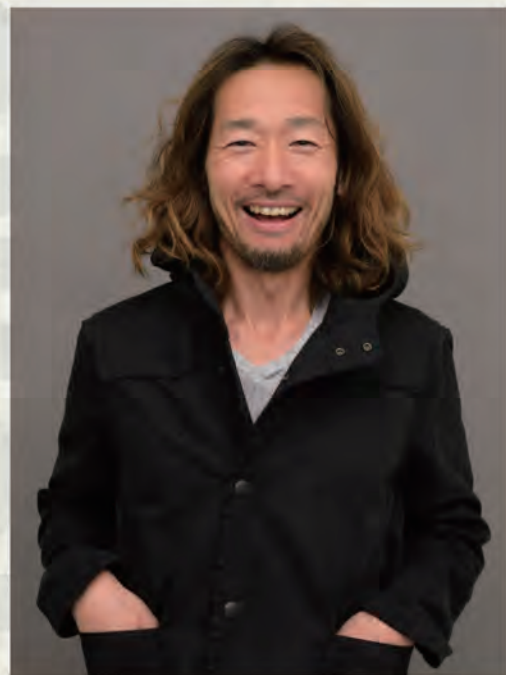


TAKESHI OSUMI

OSUMI CEO | CHIEF EDITOR FOR ZERO CHRONICLE

### 表紙のアディダスも海を守る 脱・プラへ世界の企業が大シフト

海沿いで回収したプラスチックを再生してつくるアディダスの新シリーズ<パーレイ>。今回はドイツ特集でもあるので僕の私物を表紙にしました。こうして影響力のある世界の企業はゼロ・ウェイストや脱・プラスチックに向け日々活動を増やしています。でも、いちばん数が多いのは、どこの国も中小企業。地球環境は中小の取り組み次第で変わります。本誌が、そのキッカケのひとつとなることを祈って、ここに第0号をリリースします。



RYUSUKE MURAO

BIZ BOOK AUTHOR | CHIEF EDITOR FOR ZERO-CHRO

*Ryusuke Muraio*

## DIGITAL GIVE AWAY FOR YOU

もれなくもらえる読者ギフト FOR EVERYONE

**LESS PLASTIC IS FANTASTIC**  
#zerochronicle

イラストレータのデータをダウンロードすれば、  
あなたの会社や店の名前に変えて使えます。

### “脱・プラ思考”を広げたい 行き着いたのがデザイン性

「プラスチックを減らせばファンタスティック」という文言は米国を中心に脱・プラ活動の現場で広がりつつあるスローガン。アメリカ人は、こういった顔がいいんです。『ゼロ・クロニクル』では、このスローガンをデザイン化。プロモのステッカーとしました。そして、これを読者の皆さまにもプレゼント。いや、ステッカー自体がギフトじゃないです。デザインデータをお渡しします。だから、下部にあなたの会社や店の名前を入れるのも、色を変えるのも自由です。その後はステッカーやワッペンにして“脱・プラ思考”の拡散に使ってください。「カッコいい」から興味を持ってもらえれば、それで御の字。毎号ここでは異なるデザイン化されたエコ標語を披露&プレゼントします。「それだけでも『ゼロ・クロニクル』は読むべきだ」といってもらえることを願って...。ダウンロードの元や方法は以下に。ワッペンやステッカーの製作依頼先の参考までに!



左のQRコードから、ダウンロードページへアクセスしてください。  
どなたでもデータをダウンロードすることができます。  
注) Adobe社のグラフィックソフト「Illustrator」がないと編集ができません。



ステッカーは安価で便利



ワッペンをユニフォームにつけるとグッ!



バナーとしてセミナー会場等にもあるといい



アドプリント  
[www.adprint.com](http://www.adprint.com)



ジャーヌ-2  
[www.janu-2.com](http://www.janu-2.com)



PICK UP 1

# スーパー凄いベルリンのスーパー 袋もボトルもパッケージもゼロ! FROM BERLIN

## #001 Original Unverpackt

### 超サステナブルなスーパー 世界中からの取材引切りなし

ベルリンのクロイツベルク地区はヒッピーの香りもすれば、ヨガの匂いもある、そして、また同時にLGBTQフレンドリーな雰囲気も感じます。こういったエリアはヴィーガンのお店も多いはず...(実際多いです)。「このアイデアで勝負するのなら、この場所しかない」と誰もが納得の立地に2014年にオープンしたのがパッケージやボトル、袋類もゼロのスーパーマーケット。当然扱っている品物はオーガニックでサステナブルなものばかりです。名前はドイツ語で「包装なしで、そのまま」の意味になるオリジナル・ウンフェアクト。社会インパクトを国内外に与え、今では欧米に同じようなコンセプトのお店が増えつつあります。通販も開始しましたが商品を送る際はDHLのカーボンニュートラルな配送サービスを使う徹底ぶり。この何でもゼロに近づけようとチャレンジする姿勢に世界の視線が集まり、取材の依頼はワールドワイドで絶えないと聞きます。



### いち早く地球を救うか? 便利さを捨てずに生きるか?

お客さまウォッチをしてみると、多いのは意識が高そうな女性。みな持参したタッパーやボトルに、せっせとパスタやスパイス、化粧品や洗剤等を入れています。一緒に暮らしているだろうタトゥー入りのカップルも少なくないです。いずれにせよ年齢層は若め。それは確かです。商品にバーコードがないので正直レジには時間が掛かります。また「やっぱ買うのやめた」もできません。便利さでいえば当然既存のお店に軍配は上がります。それでも率先して地球や地域コミュニティを思い、ここの買い物を選択する人たちが。お客さまも、お店も、「世界のお手本」と呼ぶに相応しい、ゼロ・ウェイストのリーダーです。ちなみに国民ひとりあたり最も欧州でゴミの量を出すのはドイツ。その半分は家庭からなので、つまり事実上「買い物はゴミを生む」ということ。梱包なしで、そのままなら使う分だけ買えてゴミもムダもありません。世界を変える素敵なアイデアですね。

#### Original Unverpackt

Wiener Straße 16, 10999 Berlin

<https://www.facebook.com/OriginalUnverpackt>

<https://original-unverpackt.de/>





## PICK UP 2

# もっと記事になるべき生地屋 ドイツ流何も汚さずつくる生地 FROM FRANKFURT

## #002 transfertex

### BtoBだからこそエコ その姿勢で世界から選ばれ続ける

「僕への来客は大体『値下げして』という話になるのですが、今日はエコの話だけでよかったです（笑）」とお茶目に話すアドルフ・シュナイダーさん。世界を飛びまわる敏腕営業部長です。価格競争激しい生地業界でトランスファータックス社が選ばれ続ける理由はエコフレンドリーさ。脚光を浴びることも直接エンドユーザーから賞賛されることもないBtoB企業だけど、率先して環境保全に取り組む姿勢は日本の会社も大いに学ぶべき。「既にエコ認証も多々受けていますが、最近では『空気への取り組みも』と考え新たに排気の装置も加えました。それを含め2時間たっぷり見せて頂いたドイツ企業のエコ的心意気。水を一切汚さずインクも独自のシステムで極限までリサイクル。受注した生地も余すことないようオンデマンドで納品できるビジネスモデルに驚愕。『50年かけて築いたノウハウですが、今日は特別にお写真もどうぞ』と、いちいち面白いアドルフさんです。



### あなたの家にもきっとある！？ ドイツの村から生まれるその生地

「生地屋といってもドイツでつくるのは『紙』だけです」。同社のサーモプリントという技術は生地になるデザインを特殊な紙にプリントし、世界40カ国に存在する代理店に送付。その紙に特別な機械で熱を加え現地調達した生地デザインを転写。各地で完成品となります。水を汚さないどころか全行程で使わないし「紙も、紙へのプリント時に使用する銅製のシリンダーも一切ムダにしません」。限なく広大な工場を歩いて驚くのはニオイや熱を感じないこと。居心地のよさからスタッフも辞めないそうです。エコへの取り組み＝働き方改革ですね。あなたの家にある鮮やかなプリントのナイキのシャツも、ザラのパンツも、イケアのカーテンも、その生地はフランクフルトから50キロ離れた小さな村から生まれている可能性大。エンドユーザーから遠く、ともすれば一般的に知られることはない、この生地屋さんの徹底したエコ姿勢。もっと世界で記事になって欲しいな...

#### transfertex

● Lindigstr. 7 63801 Kleinostheim Germany  
Tel : +49 60 27 79 0  
Fax : +49 60 27 79 200

● <https://www.transfertex.de/>





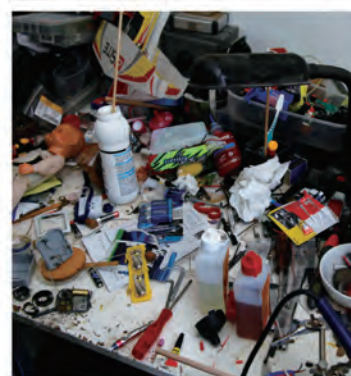
## PICK UP 3

# 「生き方」と「働き方」の一致 ひとりで始めたトイストーリー FROM BERLIN

## #003 Onkel Philipp's Spiel zeugwerkstatt

### 学生として環境を学び 起業家として表現をする

ドイツから日本が学ぶべきエコの姿勢は極力モノを「捨てない」こと。そして、中古の何かを売るときには「いい見せ方をする」こと。ここで紹介するオンクル・フィリップは、まさに、その好例。ドイツ中のオモチャを集め（捨てさせず）、自ら修理し、そして新品の玩具とミックスして店頭で並べるという新しい見せ方をして売るサステナブル玩具店です。「環境工学を学んでいたんですが、そのまま卒業して大企業に入るのとは違うなと思い、このビジネスを起ち上げました」と、フィリップおじさん（オンクル）。社会的な役割はオジサンっぽいけど眼の輝きや仕事への想いを語る姿は少年そのもの。定休日だったこの日も人形の修理に大わらわ。床に玩具やパーツが転がる文字通り足の踏み場もない職場で（なのに本人は終始ハダシ）片目が引っ込んでしまった人形の眼を探し中でした。「クチコミで僕のことを知った方から最近200体の人形を預かったんです」



### クチコミで広がるオンクル 夢があるから進化し続ける

そう、オンクルは主にクチコミでドイツ全土に広がっています。時代が合っているから、信念を持っているから、生き方と働き方が一致しているから、フィリップおじさんは広がっています。ショップはベルリン。旧東ドイツ側のプレントラウアー・ベルク地区にあり、それ故に価値高い東ドイツ時代のオモチャも集まります（コレクションとして展示も）。「今は2店目を準備中なんです」とビジネスも順調。また今回訪問したベルリン郊外の閑静なシルドーという村にある修理工房を兼ねた自宅も着々と改装が進み「今度来たらうときは、このカベに扉が付いて、誰でも不要になったオモチャを入れていけるようになってははずだよ」と笑います。リサイクルで社会に貢献したいと願った、ひとりのドイツ人のトイストーリー。手掛けているのはスモールビジネスだけど、社会に投げかけているメッセージは、とてつもなく大きい。どこのドイツも真似できない起業術です。

#### Onkel Philipp's Spiel zeugwerkstatt

Choriner Str. 35, 10435 Berlin  
Tel : +49 30 4490491

www.onkel-philipp.de





## PICK UP 4

# ベルリンのフードロスに物申す 回収したパンを売るベーカリー FROM BERLIN

## #004 SECOND BÄCK

### 20年前からゼロ・ウェイスト 小さなパン屋の大きな志

ビールやソーセージと思いがちだけど、ドイツに行く日本人の多くが現地で恋に落ちるのはパン。ドイツパンのファンになった観光客が滞在期間中にフラッと街角パン屋に入ることを繰り返すのは“ドイツあるある”です。もし、あなたがこのシチュエーションに陥ったら中心地・ミッテ地区から電車で15分ほどのブランツラウワーベルク地区に足をのばし、ここにも立ち寄ってみてください。セカンドベック。その名の通りベルリンの街で売れ残った“セカンドハンド”のパンを回収し、それらを自店でキレイに並べて売るスタイルの“ベーカリー”です。そのお店のつくりやディスプレイの巧みさから、観光客なら新品のパンに見えてしまうことでしょう。「まあ、でもみんな店名から、そういうスタイルのパン屋だっていうのは分かっているよ」と、その日お店で働いていたゾーレン・ハーティグさん。時間帯はAMでしたが、お客さまは引っ切り無しです…。



### ジャパンも見習いたいパンの魅せ方 古くても価値があるように見せる

店内にはコーヒーが飲めるスペースもあり甘い系のパンをつまみながらお喋りというお客さまも。「いや、もっと忙しいのは夕方なんだけど…」と手を動かしながら説明するゾーレさんが続けます。「今は2店舗展開で20くらいの街のパン屋と契約しているよ。それらのパン屋で余ったものを回収。うちのお店で安価で売るんだ」。気になる価格は通常4ユーロくらいするパンが、ここでは1ユーロほど。経済的な部分に惹かれて買うお客さまは4割で、残りは意識高い系。フードロスなどに関心が高い客層が集まるといいます。当然ゾーレさんも意識高い系。「CO2巻き散らしてドイツに環境雑誌の取材？」と笑わせてくれます。「ちょっとくらい古いパンだっていいじゃない。旧東ドイツの言いまわしで『古いパンより、パンがないほうがイヤ』っていうのがあるんだよ」と教えてくれました。パンも、コーヒーも、ゾーレさんの言葉の数々も味わい深い朝でした。



#### SECOND BÄCK

📍 Paul-Robeson-Str. 40 10439 Berlin  
Tel : +49 30 44652661



## PICK UP 5

# ベルリンの街中に生まれた 古くて新しいエコビレッジ FROM BERLIN

## #005 Holzmarkt

### アウトバーンは昔話！？ ドイツで見直される車の在り方

そこには車で行ったのだけれど実に停め難かった（駐車できないから近くのカソリンスタンドに置いた）。場所の名はホルツマルクト。ドイツを東西に分断していたシュプレー川のほとりに出現したサステイナブルなエコビレッジです。パーキングが用意されていないのは「自転車で来なよ」というメッセージ。現在ドイツでは若い世代を中心にアウトバーンをスピード無制限で走ることは「ガソリンの無駄づかいで時代遅れ」と思われつつあるそう。木材市場」という意味通り、敷地内にある無数の建物は古材やリサイクルされた何かでできています。いたるところ手づくり＆ウッディなベンチが置かれ、各々が好きな人と好きな時間をコーヒーやビール片手に過ごしています。カフェ、クラブ、レストラン、幼稚園、ホテル... 今後は川を利用したプール等々、今も1万8千平方メートルと既にビッグサイズなのに、まだまだ訪れるたびに発展していることを予感させます。

### このアイデアで脱・プラスチック ベルリンのカフェが始めた新作戦

ここに集まる人やお店は、いうならばパーリーピーポー（元）だったり、クリエイターの類。一昔前の表現をするならヒッピーな感じです。一般的な日本人が見たら、そのルックスに真面目さやエコの要素は感じられないかも...。でも、こういった人たちが欧米では脱プラスチックやゼロ・ウェイストのリーダー役だったりします。たとえば、そんな人たちがコーヒーを飲むときに使うのは、このRE-CUP。ベルリンのカフェでコーヒーをテイクアウトするときは、これにコーヒーを入れてもらいます。そして返却は提携しているカフェなら、街中のどのカフェに持って行ってもいいという仕組み。実にステキな「横の連携」ですね。ちなみにホルツマルクト、その電力も当然ソーラーパネルやバイオガスなどの自然エネルギーでまわっています。2017年から始まって、もうこの発展。21世紀型の手づくり系都市コミュニティ・ホルツマルクトに世界が注目しています。

Holzmarkt

Holzmarktstr.25, 10243 Berlin  
<https://www2.holzmarkt.com/>



## JOURNEY TO GERMANY ONE MESSAGE 2 ZERO CHRONICLE

毎号どこかの国にフォーカスして、そのエコアクションや企業、お店を紹介していく『ゼロ・クロニクル』。最後は特集した国のまとめとして有識者からのコメントを。日本が学ぶべきは？ 日本が進んでいることは？

### 世界中で活躍するアカデミシャン フローリアン・コールバッハ博士

フローリアン・コールバッハ／世界的に知られる企業戦略や消費トレンドが専門のアカデミシャン。〈エコノミスト・コーポレート・ネットワーク〉の北東アジアディレクターを務めながら、日本の複数の大学で教鞭をとる。



## ドイツと日本 続けたこと&続けなかったこと

### エコリーダーだったドイツの今 続けることに意味がある

環境への配慮が叫ばれる時代に入っところ、国としてのドイツの動きは世界のそれよりも早かった。私が子どもだった1980～90年代、ドイツ国民のゴミ捨て時の分別もリサイクルも非常に意識高く行われていました。が、その後システムが変わり、リサイクルのためのゴミ捨ても家から遠く離れたところに持っていかないといけなくなりました（以前は家に来てくれた）。で、それが年々ドンドン遠くなっていき、「そこまで持っていくクルマのガソリンはどうなのよ？」と思うほどに（笑）。結果、ドイツ人は以前ほど分別やリサイクルをしなくなりました。先日ドイツの田舎に家を借り長めの里帰りをしたのですが、大家さんに「ゴミの分別は？」と聞いたら、「燃える・燃えない・ビンもリサイクルものも全部一緒に捨てればいいよ」と即答されビックリした次第です。ドイツ人として、ちょっと恥ずかしいと思ったくらいです。エコ活動で大事な発想は「継続」です。

### もっと日本が伝えるべきは MOTTAINAI

ただ続けているエコ的でないこともいっぱいあって、ドイツ人はレジ袋を使わず「マイ・バッグ」を大多数の人が使っています。完全に根づいたカルチャーです。残念ながら日本は、この点とても遅れています。日本に住んでいる私は日本の「モッタナイ」の精神が大好き。でも、プラスチックに関してはモッタナイと、あまり思っていない！？他にもドイツと日本は自動車をつくるメジャー国。その点、互いにクルマ社会の在り方で世界をリードできたらと思っています。ドイツではアイドリングに関して厳しい罰金があります。日本も東京都にアイドリング条例はあるものの、ほとんどのドライバーは気にしていないかも。あとは生ごみ！ドイツは庭に捨て、いい土を育てる肥料にも役立ってます。東京で庭のある家なんて皆無だから難しいけど、サステナブルって「持続」や「循環」ということだから、こういった行動で、自然と自然のそれを感じられるといいですね。



# 「生き方」と「働き方」の一致 台湾の青年が起こすムーブメント

プラスチックやゴミをゼロに近づける活動をしている世界のヒーローたちを「ゼロ・ヒーロー」と呼びたいです。環境に大きく関わるオオスミの代表・大角武志とゼロ・ヒーローのトークセッション。お楽しみください。

DISCUSSION with ZERO HERO  
ゼロ・ウェイスト対談

第0回

Special Guest

台湾 | エコプロダクト起業家

林家宏

地方創生が活発化する台湾で全国の注目を集める、林家宏さん。南投市・竹山という竹が有名なエリアにおいて、竹を使った美しいエコプロダクトを生み出し続けています。本誌で共同編集長を務める村尾隆介と何度か台湾の地方創生のイベントで一緒になった縁から今回のインタビューに至りました。元ジェット機のエンジニア。

Chief Editor

オオスミ

代表取締役

大角武志

横浜市で先代から引き継いだ環境調査会社を経営。今までは「水」や「空気」や「土」の中の様々な成分を化学的に分析し報告することが仕事でした。これからは「この地球を何とかしよう」と努力している人たちと寄り添う「地球のドクター」として使命を持ち、ひとりでも多くの人とともに地球をよくしていきたい、そんな想いでこの雑誌をつくっています。

## 美しい竹のエコプロダクト 自然との戯れから生まれる

大角武志：林さんの竹でつくったエコ商品は私たちの雑誌の通販コーナーでも取り扱っています。プロダクトとしての美しさに惚れこみました。

林家宏：ありがとうございます。台北から南に行くと自然豊かな南投市があります。その中でも竹山という竹だらけのエリアから生まれたブランドです。

OSUMI：どんなキッカケで作り始めたのですか？

LIN：台湾で年間10億本のプラスチックの歯ブラシが捨てられていることを知ったのと、友人が温泉宿を起ち上げギフトを探していた時期が重なったのがキッカケ。竹の歯ブラシは15年に、翌年竹カップを作りました。

OSUMI：デザインが本当に美しい。HP等で使われている写真も！すべてご自分？

LIN：はい。デザインし過ぎず、使い勝手が優先です。僕はアウトドアで時間を過ごすのが大好き。デザインのアイデアは、そこで生まれます。ウミガメとの写真もリアルに海底12M底のゴミ拾いをしていたときにパチリ。この後さらにエコ商品の普及を頑張ると心に決めました。

## プラスチックを生活から排除 その姿勢が周囲を変えていく

OSUMI：竹カップもインドアでの使用だけではなくマラソン大会とかで走りながら持てる設計になっていますもんね。マラソン大会のゴミはスゴイ量ですから...

LIN：僕自身、週3回は走っているし、家族でキャンプに月数回は行きます。

OSUMI：台湾の中でも世代によってもエコに関する意識って違ったりしますか？

LIN：次の世代が大変な環境問題に対峙することは確かです。だから、エコフレンドリーな商品は少なくとも全世代共通で必要なこと。台湾とか日本とか関係なしに、いい未来を全世代でつくっていききたいですね。

OSUMI：最後に林さんのエコに関するMYルールを教えてください。

LIN：もう8年間プラスチックを使っていません。プラスチックを周りから排除しています。外食時も自分のツールを持っています。こうした活動が時分の周囲に、いい影響を与えています。

OSUMI：ちなみに以前は、どんな仕事を？

LIN：台湾の空軍で戦闘機のエンジンを直すエンジニアでした！

Thanks to ZERO HERO!  
We stand together to make'em ZERO!



# WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業

**鹿島印刷** (佐賀)



## 会議室の古くなったパイプ椅子 ▶ 「買い替え」あらため「塗り替える」

佐賀県鹿島市を拠点に全国で仕事を展開する「鹿島印刷」。100周年を目前に現在会社自体のリブランディングに着手しています。働く職場の見た目にもメス。昭和の香りがする本社を社員の力でコストをかけずに改良しています。「ハーフ手づくり」の新オフィスのテーマは「パーク」。「室内なのに公園にいるような雰囲気」を新ロゴに合わせて作りあげます」とブランドマネージャーの井出亜衣子さん。冷たい印象のパイプ椅子も、これを機会に仲間でペイント。同じくブランドマネー

ジャーの楠田悟さんは、こういいます。「買い替えるのは簡単。でも、こうして世界観に合った色に塗ればゴミも出ないコストも抑えられます。何より社員同士の絆が深まります」。ペイントはアメリカのブランド「ANNIE SLOAN (アニスローン)」。ブランディングチームが軸に進めているからこそ、そのペンキにもこだわります。最高の参考。いつか懐かしくなる夏の思い出。

**鹿島印刷 株式会社**

☎ 840-0857  
佐賀県佐賀市鍋島町3197-1

☎ 0952-24-5338

🌐 www.kashima-insatsu.jp



# WE'RE ZERO-WASTE COMPANY

ゼロ・ウェイスト企業

**電巧社** (東京)



## 毎年の関係者&社員のBBQ ▶ ゴミゼロ目指しリニューアル

東芝のパートナー企業として東京を拠点とし全国、そして上海で電気に関わるあらゆる事業を展開する電巧社。毎年初夏に行われるバーベキューも盛大に社員と家族版、そしてお客さま&関係各社を招いて版という2つのバージョンで開催しています。「SDGsに取り組む企業はBBQもサステナブルにしないと。SDGs BBQです」という電巧社のブランド戦略コンサルタントの言葉に応え、今年からは食材も含めたゼロ・ウェイストを目標に伝統のイベントを大幅に

リニューアルしました。「お客さまに失礼のないよう、そのことはご挨拶等で何度も繰り返しました」と社長・中嶋乃武也さん。結果は大成功。社員の創意工夫でゼロ意識が社内に浸透。お客さまにも「さすが電巧社さん」と、その先進的な印象が強く残ったようです。「何より片づけが格段にはやく、これは働き方改革ともいえます」と専務の中嶋二朗さんも手応えを感じています。

**株式会社 電巧社**

☎ 108-0022  
東京都港区海岸3-9-20

☎ 03-3453-2221

🌐 www.de-denkosha.co.jp





# MOMENT FOR DOCUMENT ECO FILM REVIEWS

## 環境ドキュメント映画がいちばんの学び

オオスミ社では社員がセミナーがわりに環境に関するドキュメント映画を観ます。オンデマンドでいつでも観れるいい時代。ぜひ次回の出張時のお供に。



『A PLASTIC OCEAN』  
2016/イギリス・香港/100min

Reviewer  
大角 武志  
TAKESHI OSUMI

## 世界の海に溢れだしたプラ 夢だったプラ開発は悪夢に

『プラスチック・オーシャン』で海洋学者が手つかずの自然を期待した場で目にしたのは大量のプラスチックまみれの海。魚やクジラの体内から発見される大量のプラスチック。鳥は食べ過ぎたプラスチックで飛ぶこともできず死んでいく。怒りとやるせなさ、そしてそこに自分も加担しているという罪悪感。未来をつくるはずのプラスチックがつくり始めた悪夢。この現実を前に、私たち人間ができることは？ 突きつけられた問いは重い。



『地球が壊れる前に』  
2016/アメリカ/96min

Reviewer  
平野 あや  
AYA HIRANO

## IT IS UP TO ALL OF US

史上最高視聴者数の環境ドキュメンタリー映画『地球が壊れる前に』。国連平和大使であるレオナルド・ディカプリオが、猛威を振るう自然災害、絶滅に瀕した生物や生態系、政治に流れる石油マネーなどの実態に迫る。衝撃的な映像や真実に言葉を失い、自分の無知を恥じるとともに、一人一人が消費行動と意識を変えることで、地球環境の破壊を食い止めることができることも知る。今行動しなければ地球上に存在する全ての命が失われてしまう・・・。



『CHASING CORAL  
消えゆくサンゴ礁』  
2017/アメリカ/93min

Reviewer  
村尾 隆介  
RYUSUKE MURAO

## 30年以内にサンゴ礁は全滅

『チェイシング・コーラル〜消えゆくサンゴ礁』は17年にリリースされたNetflixのドキュメント。イルカ・クジラに比べて注目度が低いサンゴだけと世界の25%の魚類がサンゴ頼りの生活。が、このままではあと30年で全滅する計算。色々な実験が行われてきたけどサンゴが死滅する理由は、ただひとつ...1〜2℃の海水温の上昇。「我々が生活している間に生態系は崩壊する」というセリフがずっと頭にこだまする...

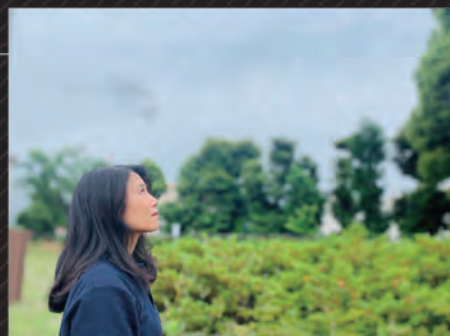


『HOME  
空からみた地球』  
2009/ベルギー/120min

Reviewer  
友広 ようこ  
MIYUKI TOMOIRO

## 悲観するには遅すぎる

全世界で一斉公開された壮大な環境ドキュメンタリー『HOME空からみた地球』。地球が誕生して46億年。対して誕生して20万年にすぎない人類は地球環境のバランスを狂わせてしまった。奇跡の生命である地球の美しい姿、資源の減少を加速させる人類の破壊行為、温暖化による海面の上昇など、変わりゆく地球の姿が次々と映し出される。衝撃の事実がずっしりと心に響く。今こそ、意志をもって行動を起こさなければならないと思わされる作品。



『TOMORROW  
パーマネントライフ  
を探して』  
2015/フランス/120min

Reviewer  
原 三由紀  
MIYUKI HARA

## 人類を滅亡から救うのは？

今のライフスタイルを続ければ人類は滅亡する。21人の科学者から「ネイチャー」に衝撃の論文が発表された。女優・監督・母であるメラニー・ロランが未来の解決策を求め世界を巡るドキュメンタリー。世界には持続可能な社会のために立ち上がっている人がたくさんいることを実感。未来の危機を乗り越えるために自分になにができるのか？ 世界の動きを自分ごとに捉えるきっかけに。センス溢れる映像は環境問題を考える一歩として最適。



Use it  
As a team



#001 竹コップ | ¥2,000 w/tax

## 多彩なカラバリが人気のヒミツ アウトドア派御用達の竹コップ

台湾で「脱・プラスチック」を掲げて、竹製品のオシャレなエコプロダクトを誕生させているブランドから、アウトドア用の竹コップをご紹介します。バリエーションは、イエロー・ピンク・グリーン・ディープグリーン・ブラック・オレンジ・パープル・着色なしの8種類。つくり手であるデザイナーは、キャンプやランニングなど大のアウトドア好き。竹コップもアウトドアで使いやすいように持ち手など工夫がこらされています。天然の竹の素材を活かしつつ、大胆な色使いや技法で、伝統的な竹細工とは一線を画します。現代を生きるエコデザイン。各カラーごとに数が限られますので、購入は早い者勝ち！ご購入時には、ご希望のカラーもあわせてお伝えください。



>> ORDER オーダー方法は裏表紙をご覧ください



Use it  
As a team



## #002 竹ストロー | ¥1,500 w/tax

### 今一番問題視される環境問題 次に持つべきはマイストロー

今や全世界で問題になっているマイクロプラスチック問題。特に小さくてリサイクルが難しいストローはそのほとんどが使い捨てられるのが問題視されています。世界ではプラスチック製ストローを廃止する動きがますます加速中。マイ箸、マイタンブラー...パーソナルに持ち歩く習慣として次に着したいのはマイストロー！こちらは台湾の南投市、竹の産地として有名な竹山という地域で生まれたエコプロダクト。ストローには天然の竹を漂白化学処理せず加工しているため竹独特の風合いが残っています。ストロー専用袋、ストロー洗浄ブラシ、ストローの3点セット。口に入れるものだからこそ安全性にこだわってつくられた台湾オールハンドメイドです。



ストロー：長さ約21cm／孔径約0.8-1cm

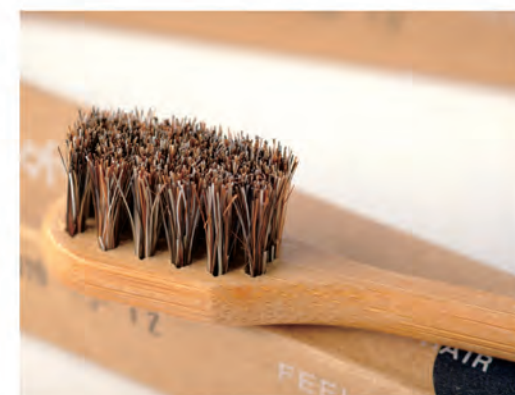
>> ORDER オーダー方法は  
裏表紙をご覧ください



## #003 竹歯ブラシ | ¥1,000 w/tax

### 毎日口にするものだからこそ 歯磨きタイムを幸せにする歯ブラシ

台湾で大量のプラスチック製歯ブラシが捨てられていることを知り、一人の青年が起業。台湾発のエコプロダクトブランド「元泰竹藝社」は多くの竹商品を生み出していますが、ブランドを象徴する商品がこの竹歯ブラシです。「歯磨きをするときはみんなが幸せであるように」こんな願いが込められています。環境にやさしい商品は自分のものとしてだけでなく友人へのプレゼントとしても最適。柄には天然の竹を、ブラシ部分は天然の馬毛を使用。ブラシは4列の配置でエコだけではなく使い勝手のよさや磨きやすさも重視したデザインに。毎日口に入れるものだからこそ、こだわりのあるアイテム。一日のスタートを気持ちよく迎えるために！



長さ：18cm／ヘッド幅：1.4cm

>> ORDER オーダー方法は  
裏表紙をご覧ください



Use it  
As a team



## #004 台湾エコバッグ | ¥2,500 w/tax

### 今アツい「台湾おばちゃんバッグ」 環境意識はかわいくキッチュに示す

台湾で「漁師網バッグ」「おばちゃんバッグ」といわれるメッシュバッグ。野菜や果物を入れてそのまま持ち運ぶおばちゃんを市場でよく見かけます。バッグごと水洗いも可の便利モノ。「おばちゃんバッグ」がキッチュでオシャレと今台湾の若者に大流行！かわいい色合いと特徴的なルックス、かつ丈夫。日本でもジワジワ人気到来中。オフィスで昼休みに携帯&財布を入れてちょっとそこまで。温泉やプールの荷物入れに。スーパーのお供に。エコとは無縁に見えて耐久性の高さと用途の多さから、ある意味究極のエコ商品。オリジナルのワッペン付。メッセージは "One Way is No Way!" ...使い捨て=カッコ悪い！ワンウェイプラスチック反対の想いに共感する方はぜひ！



>> ORDER オーダー方法は  
裏表紙をご覧ください



## #005 AQUAJACKET/CLASSIC |

※参考商品(販売はしていません。紹介のみ)  
1 CASE=27 BOTTLES 7290 YEN (270 per bottle)

### そのアイデアがあったか！ ゴミを出さないクールなボトル

日本の企業や店の脱・プラとゼロ・ウェイストを促す本誌。これからも優れた世界中のアイデアをシェアしていきたいと思います。もちろんここ日本にもイカした発想は数多く見つかります。たとえば、このミネラルウォーター・アクアジャケット。富士山の水を、こんなにカッコよくプレゼンテーションするなんて...！これを来客に出せば飲んだ後も「持って帰っていいですか？」と、その先はリユーズにつながるはず。またポケットに入るようにデザインされているのでアウトドアやイベントにも重宝。ゴミを減らすを「捨てさせない」で解決した拍手もののお水です。サイトもクール！お買い求めは下記サイトで。27本セットで送られてきます。



aquajacket.tokyo



Use it  
As a team



## #006 Le Tan / SUNSCREEN

※参考商品(販売はしていません。紹介のみ)  
2300 YEN or more

### 日焼け止め禁止のビーチ増加中 今後はサンゴを傷つけないもので

環境ドキュメント映画のレビューのページにもあったサンゴ礁の白化問題。一因にはビーチで使うサンタンローションや日焼け止めに含まれる紫外線吸収剤だといわれています。ゆえに、今世界のビーチリゾートではサンゴ礁を傷つけない新しいタイプのサンスクリーン類が台頭。その筆頭がオーストラリアの、このブランド。ル・タンといいます。レトロ新しいデザインが可愛く、思わず誰かに教えたくなっちゃいます。ココナッツ・ウォーターメロン・パイナップル・マンゴーの香りとSPFから選べます。ここでは参考商品として紹介。ちなみにパラオは来年から海に有害な物質を含む日焼け止めの使用が禁止に...。この動き、きっと加速します。



[www.farmacia.jp](http://www.farmacia.jp)

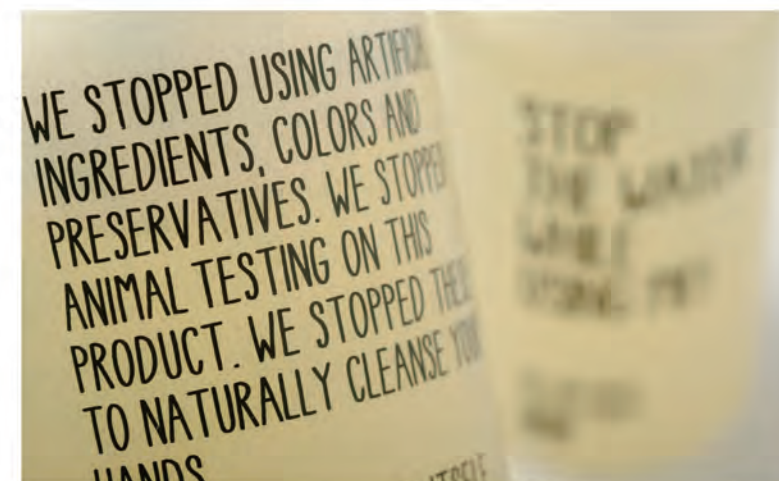


## #007 STOP THE WATER WHILE USING ME! / HAND SOAP

※参考商品  
(販売はしていません。紹介のみ)  
648 YEN or MORE

### ドイツ生まれのエココスメ そのメッセージに世界が共感

2010年にドイツで誕生した、このブランド。商品のボトルやパッケージに「私を使っている間は水を止めて!」とシンプルなメッセージをデザインして瞬く間に世界に広がりました。本誌『ゼロ・クロニクル』では今回商品のご紹介(販売はなし)ということで、ここに。シャワーは1分間で10リットルの水を使うといいます。シャンプー中に皆で水の流しっぱなしを止めたら、それだけでもセーブできる水は年間相当量。「STOP THE WATER WHILE USING ME!」というメッセージが書かれたこのブランドの商品の数々は、そこに大いに貢献します。実際に収益の一部も世界の水問題の解決のために寄付されています。



[www.biotope-inc-store.com](http://www.biotope-inc-store.com)



Use it  
As a team



## #008 CHOPS / SCREW DRIVER | ¥3,300 w/tax

### 使用済スケートボード 活かして生まれたドライバー

欧米ではロックやアート、またはストリートカルチャーの世界の住人も、リデュース・リユーズ・リサイクルへの意識が高いです。たとえばスケートボードのイベントにも古いボードを回収するブースが出ていたり...。そう、スケートボードは消耗品なのです。これは、そんな古材と化した世界中のスケーターの過去ボードから生まれた商品。グリップ部分が使用済スケートボードの板でできたドライバーです。大工道具の中ではなくペン立てに入れ、あえて来客や家族に“見せる”でいきたい、プロダクトとしての美しさを持っています。もちろんギフトや職場に置く逸品としてもオススメです。数に限りがあります。お求めはお早めに！



>> ORDER オーダー方法は  
裏表紙をご覧ください



## #009 PRESERVE / TRIPLE RAZOR | ¥1,300 w/tax

### ヨーグルト容器がヒゲそりに？ 朝のルーティンが今ひとつに！

役目を終えたヨーグルトのカップの生まれ変わりがヒゲそり！？ 本当です。持ち手の部分が、それにあたります。「朝に食べるヨーグルトの容器からのヒゲそり」という結びつけ方が面白かったので、今回『ゼロクロ』でも発売をします。3色展開で早い者勝ち。数には限りがあるので、「これは楽しい」と思ったら、即決＆ご連絡を。スベアのカミソリは、もう一個付いているので、しばらく心配はありません。もしも買い足しが必要ときあ日本のドラッグストアで取り扱っているジレット製のものでも可。この世に新しいプラスチックを生まないという想いから誕生した商品。あなたの朝のルーティンに加えていただけたら嬉しいです。



>> ORDER オーダー方法は  
裏表紙をご覧ください